

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：12603
研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）
研究期間：2016～2020
課題番号：16H06547
研究課題名（和文）国家と制度：固定化された関係性

研究課題名（英文）States and Institutions

研究代表者

松永 泰行（Matsunaga, Yasuyuki）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20328678

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 74,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、世界的に発生する「グローバルな危機」を分析するための新たな視座として、国家や個人等を「主体」視する伝統的視座と決別し、拡散・重層化しながら錯綜する関係性から主体を含む残りの全てが構成されるとする「グローバル関係学」の構築に、理論面および実証面の双方において資することを目指してきた。既存研究の精査や国内外での研究集会での議論を積み重ね、学理的には通時的関係性の錯綜との視座の提示で貢献し、最終的な研究成果を、『グローバル関係学』叢書シリーズの第2巻『「境界」に現れる危機』として、2021年2月に公刊し、その直後に公開報告会（ウェビナー）を執筆者全員と外部討論者を含めオンラインで開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国家・組織・運動体や個人を「主体」視する伝統的な視座は根強く、4年半の研究プロジェクトの主宰と「グローバル関係学」シリーズ（全5巻）の出版で目的が容易に達成できたと思えるのは早計であり、今後とも社会科学の「関係学」およびそのグローバル版としての危機の「グローバル関係学」の必要性和意義を唱道し続ける必要がある。拡散し重層化しながら錯綜する関係性から主体を含む残りの全てを構築する「関係学」をかねてより提起してきた欧米の社会学者や国際関係論の論者と世界的な研究ネットワークを構築し、さらなる唱道の努力が必要であるが、それへ向けた努力の日本国内における端緒をつけることはできたと考えている。

研究成果の概要（英文）：This research unit aimed to contribute, both theoretically and empirically, to the project's overall efforts to propose and establish a new relationalist perspective on the "global crises." For the theory construction purposes, this unit proposed a comparative historical approach premised on diachronical-relationalist analysis. After organizing several international and domestic workshops to propose and discuss its original ideas and tentative research findings, the unit published its theoretical and empirical research contributions to the overall project in the form of a monograph (volume 2 of the global relationalist studies series). Upon its publication in February 2021, the research unit also held an open-to-public webinar in which all the chapter contributors participated as speakers along with three invited discussants.

研究分野：政治学・比較歴史分析

キーワード：関係性 境界 危機 通時的関係性 錯綜 関係学 因果分析 比較歴史分析

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、21世紀に入り、国家や地理的に規定された従来の地域を超えてさまざまな問題がグローバルに共通・連動、頻発しているという新奇性、現代性に着目し、それが既存の人文社会科学では十分把握、分析しきれていないとの問題意識から、こうした現代的なグローバル危機の発生・展開・波及を総体的につかみ取る、新しい分析の視座を確立することを目的に開始された領域研究の一部であった。その領域研究では、既存の学問の多くが国家や個人・組織等の主体の存在を前提視し、国際関係論を含む意識的な何等かの関係学においても、その存在を前提視している主体間（例えば国家や多国性企業の間）の関係性の検証や議論に終始しがちであるのに対し、いかに関係性自体が主体を構成し、その構成過程の中で新たな変化や生起物としての出来事を生み出していくかに着目する新たな視座の必要性を提起した。さらに関係性は単線的でも固定的なものでもなく、さまざまな規模とレベルの関係性が生み出す主体等の中で、ますます複雑な方向し変容しつつ交錯し続けているのが、現代のグローバル化された社会の特徴である。こうした重層的でさまざまなベクトルを持つ関係性の錯綜を分析の対象とし、それらの関係性の動的な生起過程自体とその影響を把握し分析することを、本研究全体の目的と設定した。

この大きな研究プロジェクト内における本ユニットの当初の担当分野は、主体視されてきた領域主権国家に纏わる「制度化された関係性」を再吟味することであった。より具体的には、主体・制度としての国家が、いかにその領域主権国家性の維持を実現するか、また域外の超大国やグローバルな諸変動の影響、さらに難民・移民の到来や宗教・宗派・民族間の対立など越境的事象の拡散や浸透に対し、いかに防波堤の役割を果たすか（あるいは果たせないか）という観点から、関係性の中における個別の国家と制度の生起とその起源に着目し、全てを動的な過程として再吟味する実証研究を行うことから始めた。

2. 研究の目的

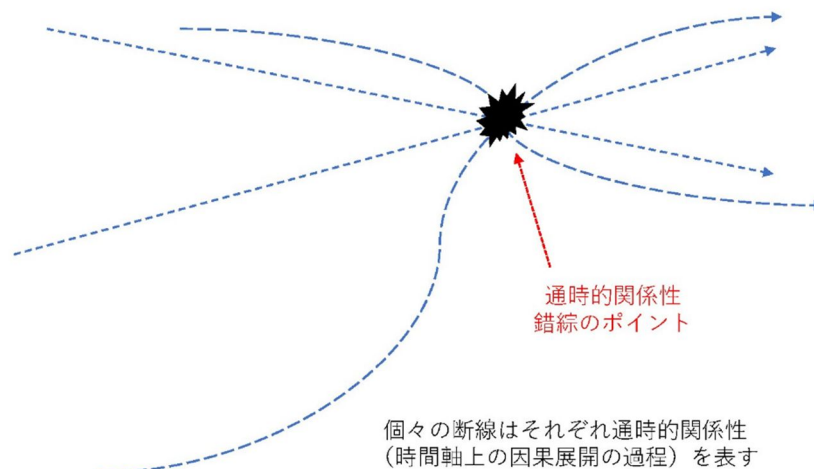
上述の通り、本研究ユニットは、世界的に新奇および思いがけない形で発生する「グローバルな危機」を分析するための新たな視座として、国家や個人等を「主体」視する伝統的視座と決別し、拡散し重層化しながら錯綜する関係性から主体を含む残りの全てが構成される過程を動的に検証・説明する、新たな「グローバル関係学」の構築という研究領域全体の目的に、理論面および実証面の双方において資することを目指した。

本ユニットでは、既存の視座においてその存在が前提視されている、制度化された政治権力としての国家と、それが関わる形で様々に構成、改編、維持されてきている諸制度（法制度などの有形的・フォーマルなものから、社会慣習や文化的・歴史的構成物としての共通理解まで含む、広い意味での諸制度）を新たな関係学の視座から再検証することで、本研究領域全体で分析することを目指す「グローバルな危機」についても、グローバル化された（地球的規模での一体化が増大した）世界とはいえ、様々な形で（国家や制度によって）分節化された場や地平において、様々な動的過程の状況依存的な錯綜の結果、制度的・社会的「境界」に沿って顕在化してくるものであると考え、その動的な生成・変容過程に分析的にアプローチすることにした。

3. 研究の方法

本研究ユニットでは、最終的に、「通時的関係性」との概念を用いてパキスタン、エジプト、チュニジア、イラン、トルコ、フランス、ウガンダなどの事例を分析、国家や制度によって分節化された場や地平においてさまざまな動態的過程が錯綜することによって、制度的・社会的「境界」に沿って「グローバルな危機」が顕在化する経緯とその様態を、それぞれの歴史的・関係学的文脈において明らかにする手法を採用した。また欧州におけるシリア難民到来の危機や UNHCR の存立規範に影響を与える関係性の変容がもたらす危機など、伝統的な国家と制度の合間や当然視されてきた関係性を揺るがす危機についても、関係性の状況的錯綜の視座から検証した。

図 1-1：通時的関係性の錯綜



本研究ユニットの参加者は、それぞれが扱う「グローバルな危機」の説明のために、それらの「危機」がさまざまな関係性のなかにおける「境界」に現れてくるものであることに加え、それらが社会的文脈と社会的時間の中で生じてきた出来事であることに着目した。そのうえで、その関係学的な解明のためには、時間軸上で因果的な変化が起こる過程、すなわち通時的に変化する関係性に正面から向き合う必要があることを強調した。なぜなら、社会学者のアンドリュー・アボットが指摘するとおり、社会過程における因果性の複雑さの一端が、その内部や周辺に複数の異なる通時的関係性の層—言い換えると、いわば複数の因果の「水流」—が重層的に流れており、それぞれが異なるスピードで変化する一方で、相互に条件付け合う関わり合い方をしていることにある、と考えたからであった。

4 . 研究成果

本研究ユニットは、4年半に亘る研究期間中に、国内外の社会科学において蓄積されてきた既存研究の精査を行う傍ら、国内外での研究集会やワークショップを開催し、そこでの議論を積み重ね、学理的には通時的関係性の状況依存的な錯綜との視座の提示で貢献した。最終的な研究成果を、『グローバル関係学』叢書シリーズの第2巻『「境界」に現れる危機』として、2021年2月に公刊し、その直後に公開報告会（ウェビナー）を執筆者全員と外部討論者を含めオンラインで開催した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「通時的関係性の錯綜から『危機』を分析する」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 酒井啓子（編）『グローバル関係学とは何か』	6. 最初と最後の頁 66-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井上あえか	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「グローバルな危機とパキスタンの苦難－現代史の地下水流－」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行（編）『「境界」に現れる危機』	6. 最初と最後の頁 22-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木恵美	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「エジプトのリビア介入の諸要因－グローバルな危機の拡大とその影響－」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行（編）『「境界」に現れる危機』	6. 最初と最後の頁 41-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松永泰行	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「『イラン危機』は誰にとってのどのような危機か－通時的関係性の錯綜と境界－」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行（編）『「境界」に現れる危機』	6. 最初と最後の頁 87-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩坂将充	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「対クルド政策—トルコ国家とクルド問題の変容—」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行（編）『「境界」に現れる危機』	6. 最初と最後の頁 110-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「シリア難民をめぐる危機のグローバルな波及—交錯する時間軸と関係性—」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行（編）『「境界」に現れる危機』	6. 最初と最後の頁 131-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山裕美	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「UNHCRをめぐる関係性の変容と人道規範の危機—湾岸アラブドナーの台頭をどう見るか—」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永泰行（編）『「境界」に現れる危機』	6. 最初と最後の頁 151-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増原綾子・鷲田任邦・ミヤ ドゥイ ロスティカ	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「インドネシアにおける社会的分断と国家の脆弱性 迫害される少数派、侵食される民主主義—」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 末近浩太・遠藤 貢（編）『紛争が変える国家』	6. 最初と最後の頁 144-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増原綾子・鷺田任邦・ウイン ウィンアウン カイン	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「民主主義とミャンマー 紛争後の国家再建の行方」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 末近浩太・遠藤 貢（編）『紛争が変える国家』	6. 最初と最後の頁 166-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山裕美	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 「日常的に越境移動する人々をめぐる政治的实践 南部アフリカにおける事例から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松尾昌樹・森千香子（編）『移民現象の新展開』	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 535
2. 論文標題 「イランにおけるメディアと政治 国家による情報統制と政治勢力による道具化」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 44-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masamichi IWASAKA	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 "The Border between Political Inclusion and Exclusion in Turkey: An Analysis from the Viewpoint of Civil-Military Relations"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本中東学会年報』	6. 最初と最後の頁 95-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24498/ajames.35.1_95	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岩坂将充	4. 巻 第20号
2. 論文標題 「トルコにおける政軍関係と分断構造」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本比較政治学会年報』	6. 最初と最後の頁 137-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 No. 671
2. 論文標題 「トランプ政権とイラン核合意の行方 米国単独離脱とその影響」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩坂将充	4. 巻 190
2. 論文標題 「書評論文 政軍関係研究の螺旋的發展に向けて」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際政治』	6. 最初と最後の頁 145-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga, Yasuyuki	4. 巻 3(1-2)
2. 論文標題 “(Theological and Institutional Soul-searching Aside) Will Re-problematizing Iran’s Islamic State a la ‘Religious Secularity’ Require Another Islamic State?”	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Religious and Political Practice	6. 最初と最後の頁 84-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/20566093.2017.1292173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 No. 948
2. 論文標題 「イランの核合意・制裁解除 その意義、背景と余波」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 17-21, 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩坂将充	4. 巻 18
2. 論文標題 「議院内閣制における政治の『大統領制化』 トルコ・エルドアン体制と大統領権限の強化」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『日本比較政治学会年報』	6. 最初と最後の頁 129-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩坂将充	4. 巻 9
2. 論文標題 「難民をめぐるトルコ・EU関係 国際合意と安全保障の観点から」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『上智ヨーロッパ研究』	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 増原綾子	4. 巻 185
2. 論文標題 「民主化期インドネシアにおける脅威認識の変容と政軍関係」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『国際政治』	6. 最初と最後の頁 82 97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計15件(うち招待講演 0件/うち国際学会 11件)

1. 発表者名 Yasuyuki Matsunaga and Umut Azak
2. 発表標題 "The State Regulations of Minority Religions in Comparative Perspective,"
3. 学会等名 International Society for the Sociology of Religion Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida and Hiroyuki Aoyama
2. 発表標題 "A Comparative Study of Dynamics and Perception of the Syrian Refugees"
3. 学会等名 The Global Syrian Refugee Crisis: Health and Socioeconomic Perspectives, Challenges and Opportunities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 "Multi-level support system and its appreciation by Syrian refugees in Germany"
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masamichi Iwasaka
2. 発表標題 "Political Marginalization in Turkey: Drawing and Crossing a Border between Inclusion and Exclusion"
3. 学会等名 The IPSA World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aiko Nishikida, Yutaka Takaoka, and Shingo Hamanaka
2. 発表標題 “Comparative study of the dynamics of the Syrian refugees in Jordan, Turkey and Sweden”
3. 学会等名 European Social Science History Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 錦田愛子
2. 発表標題 「離散により乗り越える分断 パレスチナ人の再難民化と国民国家」
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山裕美
2. 発表標題 「難民ガバナンスにおける『保護する責任』の実践 国家・市民 社会の関係から 」
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩坂将充
2. 発表標題 「トルコにおける民主化 クーデタとクーデタ『未遂』のはざま」
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中山裕美
2. 発表標題 「突発事態とガバナンスの可変性：難民ガバナンスにおける多主体連携の構築」
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yutaka Takaoka and Aiko Nishikida
2. 発表標題 "Syrian and Palestinian Diaspora: Their Experience and Consciousness of Migration"
3. 学会等名 The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) Commission on the Middle East (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasuyuki Matsunaga
2. 発表標題 "A Processual Sociological Perspective on Sectarian Insurgency in Iran's Two Border Areas"
3. 学会等名 International Conference on "Re-thinking Nationalism, Sectarianism, and Ethno-Religious Mobilisation in the Middle East" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuyuki Matsunaga
2. 発表標題 "Imagining Resecularization in Iran and Turkey: A Comparative-Historical and Theoretical Inquiry"
3. 学会等名 International Workshop on "Imagining Resecularization in Iran and Turkey: A Comparative-Historical and Theoretical Inquiry" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsunaga, Yasuyuki
2. 発表標題 “Reconciling Islamic Constitutionalism with Pragmatic Governance: What Does the Iranian Experience Offer?”
3. 学会等名 Arab Association of Constitutional Law (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsunaga, Yasuyuki
2. 発表標題 “Religion, Violence, and the Politics of Sanctified Punishment: A Case of Iran's Islamic State”
3. 学会等名 American Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masamichi Iwasaka
2. 発表標題 "The Constitutional Court in Turkey: An Independent and Democratizing Actor?"
3. 学会等名 International Forum on Asia and the Middle East (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 間寧、岩坂将充ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 234
3. 書名 『トルコ』（シリーズ・中東政治研究の最前線1）	

1. 著者名 小泉康一、錦田愛子ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 408
3. 書名 『「難民」をどう捉えるか 難民・強制移動研究の理論と方法』	

1. 著者名 細谷雄一、増原綾子ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文藝春秋	5. 総ページ数 301
3. 書名 『軍事と政治日本の選択 歴史と世界の視座から』	

1. 著者名 Takashi Inoguchi, Ayako Masuhara and others	4. 発行年 2020年
2. 出版社 SAGE Reference	5. 総ページ数 1252
3. 書名 The Sage Handbook of Asian Foreign Policy	

1. 著者名 増原 綾子、鈴木 絢女、片岡 樹、宮脇 聡史、古屋 博子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 322
3. 書名 『はじめての東南アジア政治』	

1. 著者名 井上あえか（他の執筆者：牧野 百恵、荒井 悦代、ほか28名）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 612
3. 書名 『アジア動向年報 2018』	

1. 著者名 柴田大輔、中町信孝、鈴木恵美、他10名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 『イスラームは特殊かー西アジアの宗教と政治の系譜 』	

1. 著者名 石黒大岳、錦田愛子、他3名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 172
3. 書名 『アラブ君主制国家の存立基盤』	

1. 著者名 駒井洋、人見泰弘、錦田愛子、他16名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 『難民問題と人権理念の危機ー国民国家体制の矛盾 』	

1. 著者名 井口泰、錦田愛子、他60名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 『移民政策のフロンティア 日本の歩みと課題を問い直す』	

1. 著者名 末廣昭、大泉啓一郎、増原綾子、他10名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 343
3. 書名 『東アジアの社会大変動 人口センサスが語る世界』	

1. 著者名 杉本良男、井上 あえか、他多数	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 770
3. 書名 『インド文化事典』	

1. 著者名 井上 あえか、他30名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 620
3. 書名 『アジア動向年報2017』	

1. 著者名 井上あえか、他14名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 232
3. 書名 『人文知のトポス グローバリズムを超えて あるいは「世界を毛羽立たせること」』	

1. 著者名 Masamichi Iwasaka, Radmila Nakarada, Koki Ishigohoka, Atsuko Higashino, Misa Durkovic, Idris Danismaz, Taro Tsukimura, Ana Jovic-Lazic, Ivona Ladevac, Dragan Dukanovic, Utpal Vyas, Naonori Kodate, Srdan T. Korac, Tetsushi Fujimoto, Sanja Jelisivac-Trosic, Keita Hashimoto	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Belgrade: Institute of International Politics and Economics	5. 総ページ数 263
3. 書名 Social and Economic Problems and Challenges in the Contemporary World	

1. 著者名 岩坂将充（私市正年、浜中新吾、末近浩太、石黒大岳、吉川卓郎、荒井康一、溝淵正季、今井真士、松尾昌樹、長岡慎介、岩崎えり奈、清水学、堀抜功二、嶺崎寛子、錦田愛子、横田貴之、松本弘、山尾大、白谷望、他）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 390
3. 書名 『中東・イスラーム研究概説 政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論』	

1. 著者名 鈴木恵美（他の執筆者：東大作、峯陽一、長谷川祐弘、植木安弘、畝伊知郎、杉村美紀、福島安紀子、長有紀枝、大島賢三、滝澤三郎、旭英昭）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 284
3. 書名 『人間の安全保障と平和構築』	

1. 著者名 鈴木恵美（他の執筆者：山内昌之、宮家邦彦、保坂修司、溝淵正季、高岡豊、今井宏平、小林周、吉岡朋子、小山堅、田村亮平、星野守、吉川憲章、国末恵人、中川恵、辻上奈美江、近藤洋平、小松久男）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 420
3. 書名 『中東とISの地政学 - イスラーム、アメリカ、ロシアから読む21世紀』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「グローバル関係学」A01 国家と制度 http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_A01/A01_index.html 「重層的文脈重視型『グローバル関係学』の視座 その確立のための予備的議論」 http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/online_papers/onlinepaper20180917.pdf "SADC Multilateral Migration Governance" http://www.tufs.ac.jp/asc/ASCWorkingPapers2018_029-043Nakayama.pdf

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 恵美 (Suzuki Emi) (00535437)	福岡女子大学・国際文理学部・准教授 (27103)	
研究分担者	井上 あえか (Inoue Aeka) (30388988)	就実大学・人文科学部・教授 (35307)	
研究分担者	増原 綾子 (Masuhara Ayako) (70422425)	亜細亜大学・国際関係学部・教授 (32602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	錦田 愛子 (Nishikida Aiko) (70451979)	慶應義塾大学・法学部(三田)・准教授 (32612)	
研究分担者	岩坂 将充 (Iwasaka Masamichi) (80725341)	北海学園大学・法学部・准教授 (30107)	
研究分担者	中山 裕美 (Nakayama Yumi) (90634014)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	稲永 祐介 (Inenaga Yusuke)		
研究協力者	アクチャル エメル (Akcali Emel)		
研究協力者	カルシガリラ イアン (Karusigarira Ian)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計8件

国際研究集会 International Workshop "Refugees and Internally Displaced Persons in Post-war Serbia"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 "Relational Approaches to Turkish Politics" Workshop	開催年 2018年～2018年

国際研究集会 "Relational Studies on Global Conflicts: Toward a New Approach to Contemporary Crises" Conference	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 "Turkish-Japanese Joint Research Workshop"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 "Imagining Resecularization in Iran and Turkey: A Comparative-Historical and Theoretical Inquiry"	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 "The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation?"	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 "Turkish Society and Politics from a 'Relational Studies on Global Crisis' Perspective"	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 "Imagining an Alternative 'Post-Secular' State: Historicizing and Comparing National Struggles over Re-secularization"	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------